

【憲 法】

予防接種法にもとづき、国はインフルエンザの予防接種を国民に強制しているとする。これは公衆衛生の向上・増進を企図するものであるが、ごくまれに、しかし不可避免的に、少数の人々に重篤な副作用（後遺症など）を引き起こすものでもあった。

インフルエンザの予防接種の結果、現実には重篤な後遺症を被ってしまったXは、国に対して補償を求めようと考えている（なお、接種担当医に過失はなかったとする）。法律上の補償制度はあるものの、その定める補償金額は著しく低額で、とうてい十分な救済にはならないものである場合、被害者Xは、どのような法的構成により救済を求めることができるだろうか、検討を始めている。

【設問】

あなたは、本件に関し、Xから相談を受けた弁護士であるとする。あなたは、この事案に含まれる憲法問題に関してどのような見解をXに対して提示するか。なるべく広く問題点をひろいあげて論じなさい。